

プレスリリース (2013年8月1日版)

大竹伸朗展



2013年7月13日(土) – 11月4日(月)
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

【お問い合わせ先】

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
[展覧会担当] 中田耕市、古野華奈子、松村円
〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1
Tel. 0877-24-7755 Fax. 0877-24-7766
E-mail. press@mimoca.org

【広報用画像のご請求先】

作品画像、展示画像は、当館公式ウェブサイト (<http://mimoca.org/ja/press/>) またはメール (press@mimoca.org) よりご請求ください。

大竹伸朗展



【概要】

大竹伸朗展 ニューニュー Shinro Ohtake: NEWNEW

会期：2013年7月13日（土）－11月4日（月・休） 会期中無休 [115日間]

時間：10:00-18:00（入館は17:30まで）

会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

主催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

助成：芸術文化振興基金、公益財団法人花王芸術・科学財団、財団法人自治総合センター

協力：Take Ninagawa

□観覧料

一般 950円（760円）、大学生 650円（520円）

*常設展「猪熊弦一郎展 創意工夫の手あと」の観覧料を含みます。

*（ ）内は20名以上の団体料金。「瀬戸内国際芸術祭2013」夏及び秋会期中、パスポートをお持ちの方も（ ）内の料金でご覧いただけます。

*8月24日（土）・25日（日）は当館1階ゲートプラザにて「まるがめ婆娑羅まつり」開催のため観覧無料（ただし展示室内に音が響く場合があります）

高校生以下または18歳未満・丸亀市在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

【見どころ】

1. 大竹伸朗、久々の**大規模な新作展**です。
2. 高松市美術館、瀬戸内国際芸術祭2013と連動し、**9月1日までは香川県内で大竹伸朗3つのプロジェクト**をご覧ください。

【開催趣旨】

大竹伸朗、待望の新作展

大竹伸朗（1955-）は、1980年代初頭に鮮烈なデビューを飾って以来、絵画を中心に音、写真・映像、印刷などの表現を取り込みつつ、旺盛かつ多彩な活動を展開してきました。また、異分野のアーティストとのコラボレーションでも知られており、彼の影響力は現代美術の世界にとどまらず、デザイン、文学、音楽などあらゆるジャンルに及んでいます。

本展は、四国・宇和島への移住から25年を経て新しい局面を迎えつつある「大竹伸朗の現在」に焦点を絞った、久々の大規模な新作展となります。カッセルの森から美術館へと場所を移して新たに展示される《モンシェリー：自画像としてのスクラップ小屋》をはじめ、高さ6mに達する大型の平面作品や、3層吹き抜けのエントランスに設置する巨大なインスタレーションなど、当館の建築や展示空間を最大限に活かして制作される最新作、そして、2011年より取り組んでいる〈時憶〉シリーズやグワッシュを用いた新たな作品群など、まさに「ニューニュー」というタイトルにふさわしく、新作及び国内未発表の作品を中心に構成しています。

比類のない熱量をもって常に前進し続けるアーティスト 大竹伸朗の「今」に立ち会い、次なる展開への予兆を感じる絶好の機会となることでしょう。

大竹伸朗展



[主な出品作品]

1. 宇和島駅 1997年

かつて駅舎に取り付けられていたネオンサイン。丸亀駅前に建つ当館が「宇和島駅」に変容します。大竹が拠点置く宇和島、本展開催地の丸亀、「憶速」開催地である高松。この3都市が「予讃線」を介してつながっていることを象徴しているかのようです。



1. 宇和島駅 1997

2. 時憶／美唄 2013年 [初公開作品]

巨大な鉄製ボーリングピンを用いた、高さ約10mの立体作品。ネオンサインで彩られた錆色のピンが館内のエントランスホールに屹立しています。素材となったボーリングピンは、大竹が北海道・美唄でこの物体を発見し譲り受けたものです。



2. 時憶／美唄 2013

3. 時憶／雲 2013年 [初公開作品]

約300本の直管ネオンチューブからなる大型の立体作品。展示室の中空に浮かぶ様はまるで「ネオンの雲」のようです。展示室を照らし出すカラフルなネオン独特の光は、時に禍々しさを感じさせます。



3. 時憶／雲 2013

4. 時憶／ゾーン 2013年 [初公開作品]

高さ6m、幅4mを超える巨大な絵画。紙が幾重にも貼り重ねられ、赤い蛍光色（ネオンカラー）で描かれた画面は、『時憶／雲』と呼応し、私たちに危険な区域の存在を警告しているかのようです。



4. 時憶／ゾーン 2013

5. モンシェリー：自画像としてのスクラップ小屋 2012年

[国内初公開]

2012年ドイツ、カッセルで開催された世界最大級の国際展「dOCUMENTA(13)」にて発表。今回は森の中ではなく、展示室内に場所を移して設置されました。この小屋は大竹自身の「身体」であり、その体内には彼のライフワークである「スクラップブック」を内包しています。再現に留まらず、丸亀で採集した素材や音などが大竹の手によってさらに加えられ、丸亀バージョンとして再生しました。

6. 焼憶 2013年

2013年、常滑の「世界のタイル博物館」にて初めて公開された新作。大竹のこれまでの作品が転写されたタイルや、倉庫に眠っていた試作品の陶板で構成された、重さ約1.5tの巨大な「本」です。

7. 〈境界色〉シリーズ 2011年- [初公開作品]

2011年頃より大竹はバクテリアの生態にインスピレーションを受け、グワッシュを用いた作品の制作に精力的に取り組んできました。本展ではこの新しいシリーズより64点を展示しています。



7. 境界色 104 2013

8. 〈時場〉〈時憶〉シリーズ 2011年- [一部初公開作品]

大竹が2011年より取り組んでいる新しいシリーズ〈時場〉〈時憶〉シリーズを一举9点展示。〈時場〉は大竹の新刊『ピ』（新潮社刊）のカバーとしても使われています。

その他にも〈配置〉〈時痕〉といった本展で初公開となる作品シリーズも展示しております。

All images © Shinro Ohtake
Photo: Masahito Yamamoto (1-4)

大竹伸朗展



[関連プログラム]

[ニューニュー][憶速][女根/めこん] スタンプラリー *実施中

2013年夏は、当館での「大竹伸朗展 ニューニュー」を含め、香川では3つの会場で大竹伸朗のプロジェクトが行われています。3会場の合同企画として、各会場に設置されたスタンプを集めると、「ニューチャンネル」特製缶バッジを進呈するスタンプラリーを開催中です（缶バッジがなくなり次第終了）。

(他会場のご案内)

[大竹伸朗展 憶速]

会期：7月17日-9月1日 会期中無休

時間：9:30-19:00（日曜日・8月10日は9:30-17:00）

会場：高松市美術館（香川県高松市紺屋町10-4）

料金：一般1000円（800円）大学生500円（400円）高校生以下・身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は無料

(問い合わせ) 高松市美術館

TEL 087-823-1711

URL http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kyouiku/bunkabu/bijyutu/ex_special/s252.html

[女根/めこん]

会期：瀬戸内国際芸術祭2013 夏会期7月20日-9月1日/秋会期10月5日-11月4日 会期中無休

時間：9:00-16:30 *夏会期中、金・土・日および8月12-15日は9:00-20:30

会場：女木小学校（女木島・香川県高松市女木町236-2）

料金：500円 15歳以下無料 *「瀬戸内国際芸術祭2013」作品鑑賞パスポートにて鑑賞可能

(問い合わせ) 瀬戸内国際芸術祭2013 総合インフォメーション

TEL 087-813-2244

URL <http://setouchi-artfest.jp/artwork/a036>

7月20日-9月1日の期間は3つのプロジェクトがすべてご覧いただけます

〈夜間開館〉 *実施中

日中お忙しい方も本展をお楽しみいただけるよう、7月20日及び会期中の第二・四土曜日に夜間開館を実施します。

日時：7月13日(土)、7月20日(土)、7月27日(土)、8月10日(土)、8月24日(土)

9月14日(土)、9月28日(土)、10月12日(土)、10月26日(土)

各日18:00-21:00

*通常の観覧券チケットでご覧いただけます。

〈キュレーターズ・トーク〉 *実施中

本展担当学芸員が展示室にて見どころをお話しします。

日時：会期中の毎日曜日 14:00-15:00

参加料：無料（ただし観覧券チケットが必要です）

*事前申込み不要/当日1階受付前にお集まり下さい。



大竹伸朗展



[関連プログラム]

〈中高生向けワークショップ〉 *開催予定

講師：大竹伸朗

日時：2013年9月23日（月・祝） 時間未定

場所：2階造形スタジオ

対象：中学生・高校生

参加料：無料



「大竹伸朗展 ニューニュー」展示風景
写真：山本真人

〈作品展示のためのボランティア・プログラム〉 *終了しました

新作のインスタレーション作品の展示設営を体験していただくプログラムです。美術館や展覧会への関心を深めていただき、また鑑賞の際に今まで以上に作品を楽しみ、味わっていただくためのきっかけを提供します。

日程：6月26日-7月2日 9:30-16:00

場所：3階展示室C、エントランスホール他 展覧会会場

参加料：無料

募集人数：各日2~4名（複数日のご参加も可能です）

〈アーティスト・トーク〉 *終了しました

出品作家の大竹伸朗が作品や展覧会などについて語ります。

講師：大竹伸朗

日時：7月20日 18:30-

場所：2階ミュージアムホール

定員：170名（要予約）

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）



「大竹伸朗展 ニューニュー」展示風景
写真：山本真人

〈アフターパーティー〉 *終了しました

アーティスト・トーク終了後、作家を囲んでアフターパーティーを行います。

日時：7月20日 18:30-

場所：3階カフェレスト MIMOCA

料金：1,000円（1ドリンク付）

Shinro Ohtake

NEWNEW

【丸亀市猪熊弦一郎現代美術館について】

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館は、1991年、全国でも類を見ない“駅前美術館”として、丸亀市ゆかりの画家・猪熊弦一郎の全面的な協力のもと開館しました。猪熊本人より寄贈を受けた約2万点に及ぶ猪熊作品を所蔵し、70年に及ぶ猪熊の画業を常設展示にてご紹介するほか、現代美術を中心とした企画展を開催しています。

また、講演会やコンサートなどの多彩なプログラムや、子どもたちの豊かな感性と創造力を伸ばし育てることを目的とするワークショップなどの教育普及活動も積極的に行っています。



【アクセス】

● 鉄道 (JR) で ※JR 丸亀駅下車、南口より徒歩1分

- ・東京駅 (新幹線で約3時間20分) / 博多駅 (新幹線で約1時間40分) — 岡山駅 — (松山または高知方面行特急で約40分) — 丸亀
- ・高松駅 — (予讃線快速で約30分) — 丸亀

● 飛行機で

[高松空港から] ・高松空港 — (タクシー約40分 / 乗合タクシー * 約50分) — 丸亀

*〈高松空港シャトル便〉1名片道1,500円 / 搭乗前日午前中迄の予約制 (TEL.0120-135024 または 0877-22-1112) / 東讃交通

・高松空港 — (バス約40分) — 高松駅 — (予讃線快速で約30分) — 丸亀

[岡山空港から] ・岡山空港 — (バス約30分) — 岡山駅 — (松山または高知方面行特急で約40分) — 丸亀

● 高速バスで

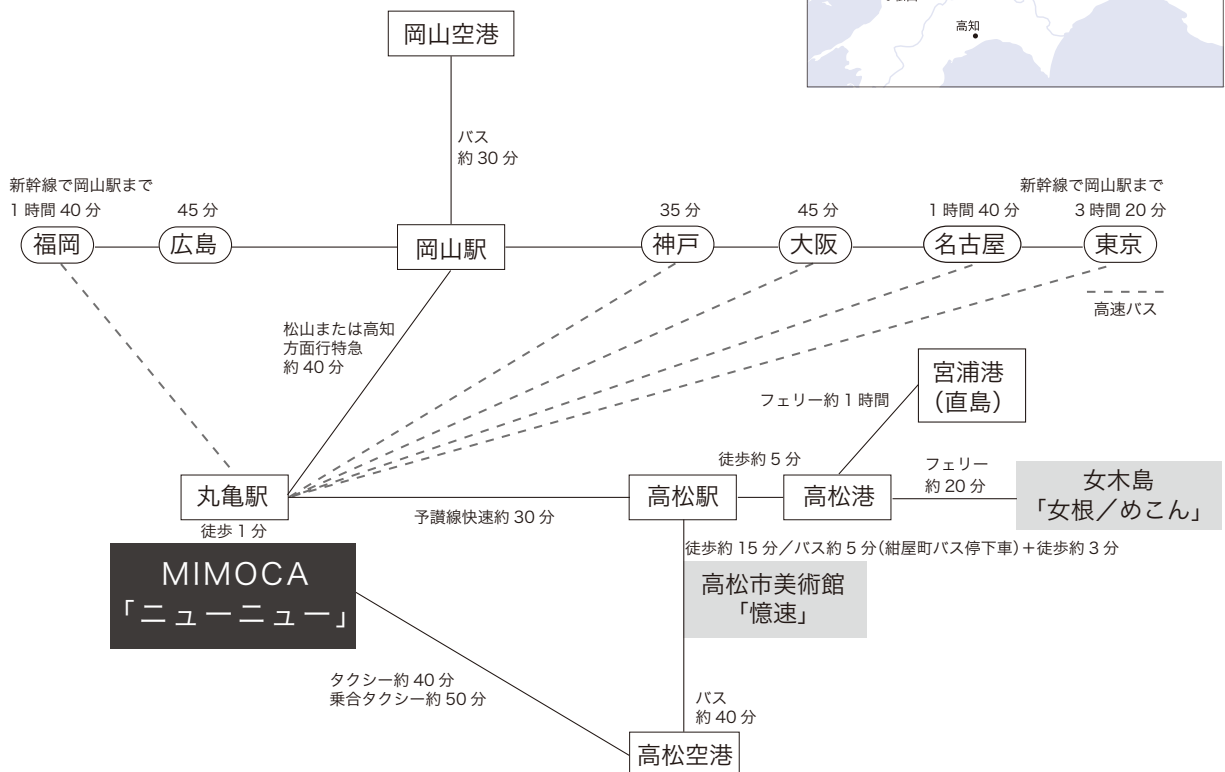
東京・横浜・名古屋・大阪・関西空港・神戸・福岡より直通運行

● お車で ※JR 丸亀駅前地下駐車場・1時間無料

[本州方面から] ・(瀬戸大橋経由) 瀬戸中央自動車道 坂出北 IC より約10分

・(神戸淡路鳴門道経由) 高松自動車道 坂出 IC より約15分

[四国内の高速道路から] ・高松自動車道 坂出 IC ・善通寺 IC より約15分



大竹伸朗 Shinro Ohtake

1955年東京生まれ

1980 武蔵野美術大学 造形学部油絵学科卒業

【主な個展】

- 2013 「大竹伸朗展 憶速」高松市美術館、香川
「大竹伸朗展 ニューニュー」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川
「大竹伸朗 焼憶展」INAXライブミュージアム 世界のタイル博物館、愛知
- 2012 「大竹伸朗」アートソング・センター、ソウル
- 2011 「大竹伸朗展」佐賀町アーカイブ、東京
- 2010 「#65 | 2005 - 2010」Take Ninagawa、東京
「#65」Take Ninagawa
- 2009 「貼貼貼貼/Shell & Occupy 4」Take Ninagawa
- 2008 「貼/Shell & Occupy」「貼貼/Shell & Occupy 2」「貼貼貼/Shell & Occupy 3」Take Ninagawa
- 2007 「大竹伸朗と別海 2007年」ウルリー牧場、北海道
「大竹伸朗 路上のニュー宇宙」広島市現代美術館、広島/福岡市美術館、福岡
- 2006 「大竹伸朗と別海」ウルリー牧場
「大竹伸朗 全景1955-2006」東京都現代美術館
- 2004 「UK77 写真、絵、貼1977-78年」ベイスギャラリー、東京
- 2002 「Man Is Basically Good 大竹伸朗個展1982-2000」ベネッセハウス直島コンテンポラリーアートミュージアム、香川
- 2001 「大竹伸朗デジタル・ワークス 鼠景」エブソン・イメージング・ギャラリー、東京
- 2000 「ダブ景 大竹伸朗」KPOキリンプラザ大阪
「大竹伸朗展」ベイスギャラリー
- 1999 「ZYAPA IORAMA 大竹伸朗展」バルコギャラリー、東京
- 1998 「新津—あいまいで私が日本 大竹伸朗展」新津市美術館、新潟
- 1997 「大竹伸朗 プリンティング/ペインティング」CCGA現代グラフィックアートセンター、福島
- 1993 「大竹伸朗 網膜」ギャラリー・ところ、東京
- 1991 「大竹伸朗の仕事 ECHOS 55-91」西武アート・フォーラム、東京/なんばCITYホール、大阪
- 1990 「大竹伸朗 Shipyard Works 1990」寺田倉庫Space T33、東京
- 1988 「キャンヴァシズム—夢と細胞 大竹伸朗新作展」西武アート・フォーラム
- 1987 「大竹伸朗展 1984-1987」佐賀町エキジビット・スペース、東京
- 1985 「大竹伸朗—放浪する言語/未来の日本前衛」パラッツォ・ピアンコ、ジェノヴァ
「大竹伸朗ペインティング/コラージュ」ICA、ロンドン
- 1982 「大竹伸朗 個展」ギャラリー・ワタリ、東京

【主なグループ展】

- 2013 「第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」ヴェネチア
「瀬戸内国際芸術祭 2013」香川
「路上と観察をめぐる表現史—考現学以後」広島市現代美術館、広島
- 2012 「dOCUMENTA(13)」カッセル
「Double Vision: Contemporary Art from Japan」モスクワ市近代美術館(モスクワ)/ハイファ美術館群 (ハイファ)
- 2010 「10,000 Lives」光州ビエンナーレ2010
「これも自分と認めざるをえない」21_21 DESIGN SIGHT、東京
「瀬戸内国際芸術祭 2010」香川
- 2009 「I BELIEVE:日本の現代美術」富山県立近代美術館
- 2006 「武満撤: Visions in Time」東京オペラシティアートギャラリー
- 2004 「再考: 近代日本の絵画—美意識の形成と展開・第2部」東京都現代美術館
- 2001 「スタンダード展」直島コンテンポラリーアートミュージアム
「大竹伸朗とディーター・ロート 見る・読む・触れるアーティスト・ブック」うらわ美術館ギャラリーD、埼玉
- 1999 「日本ゼロ年」水戸芸術館現代美術ギャラリー、茨城
「時代の体温 ART/DOMESTIC」世田谷美術館、東京
- 1996 「パイライン 宇和島⇄大阪 Puzzle Punks大竹伸朗+ヤマタカ・アイ」ザ・ギンザ・アートスペース、東京
- 1994 「600ソウル国際美術展」国立現代美術館、ソウル
「アウト・オブ・ハウズ 海景の中の現代美術展」ベネッセハウス直島コンテンポラリーアートミュージアム
- 1993 「第1回アジア・パシフィック現代美術トリエンナーレ」クイーンズランド州立美術館、ブリスベン
- 1991 「キャビネット・オブ・サインズ」テート・ギャラリー(リバプール)/ホワイトチャペル・ギャラリー(ロンドン)/マルメ・クンストフェライン-1992
- 1990 「Japan Art Today 現代日本美術の多様展」ストックホルム文化会館/シャーロットテンボルグ美術展会場(コペンハーゲン)/ヘルシンキ市立美術館/レイキャビック市立美術館 -1991
「80年代の日本現代美術」フランクフルト・クンストフェライン/ボン・クンストフェライン/ウィーン近代美術館/プレゲンツ・フェスト

シュピールレ -1991

「ニュー・ネセシティ 第1回タイン国際現代美術展」ニューキャッスル

- 1989 「アゲインスト・ネイチャー：80年代の日本現代美術」サンフランシスコ近代美術館／アクリン美術館／MITリスト視覚芸術センター・ボストン銀行アート・ギャラリー／シアトル美術館／シンシナティ現代美術センター／ニューヨーク大学グレイアートギャラリー／ヒューストン現代美術館 -1991
- 1985 「Artists' Books: Japan 日本のアーティストが創った"本"の展覧会」フランクリン・ファーンズ、ニューヨーク
- 1981 「ART POP Japan-Tokyo Today」ICA
- 1979 「θ(シータ)」ヴィレッジ・ギャラリー、東京

【主なライブ・パフォーマンス】

- 1996 「デストロイ・オール・モンスターズ日本ツアー '96」ラフォーレミュージアム原宿、東京
パズルパンクスの初ライブパフォーマンス、遠隔操作エレキ・ギター「ダブ平」を初演奏
- 1995 ヤマタカ・アイとノイズユニット「パズルパンクス」結成、初CDブック「パイプライン」(UCA)発表
- 1985 「ライブ・ワンズ!1985」ラッセル・ミルズとのサウンド・ユニット「オンリー・コネクト」によるサウンド・パフォーマンス、オックスフォード近代美術館、ロンドン
- 1980 「クルバ・カボル」B・C・ギルバート、グレアム・ルイス、ラッセル・ミルズとのサウンド・パフォーマンス、ノートルダム・ホール(ロンドン)
- 1978 音響実験グループ「JUKE/19」活動開始、81年までにLP、EP5枚制作

【主なパブリック・ワーク】

- 2009 「直島銭湯 |♥湯」財団法人直島福武美術館財団、香川
- 2006 「はいしゃ 〈舌上夢/ボッコン覗〉」財団法人直島福武美術館財団
- 1999 「北の空に浮かぶカタチ」札幌市生涯学習センター、北海道
- 1990 「船首と穴」「切断された船首」「船尾と穴」株式会社ベネッセコーポレーション、香川

【主な出版物】

- 2010 「NOTES 1985-1987」ジェイ・ブイ・ディー
「直島銭湯 |♥湯」青幻社
- 2008 「見えない音、聴こえない絵」新潮社
- 2007 「大竹伸朗 全景」大竹伸朗全景展実行委員会
「大竹伸朗展 路上のニュー宇宙」大竹伸朗展実行委員会
- 2006 「ネオンと絵具箱」月曜社
- 2005 「既にそこにあるもの」筑摩書房
- 2004 「カスバの男 モロッコ旅日記」集英社
「UK77」月曜社
- 2002 「テレビン月日」晶文社
「18」青山出版社
- 1999 「ZYPAИORAMA 日本景」朝日新聞社
- 1997 「YMCB」トランスアート
- 1993 「ジャリおじさん」福音館書店
- 1991 「SO:大竹伸朗の仕事 1955-91」UCA宇和島現代美術
- 1986 初画集「<倫敦/香港>1980」用美社
- 1982 「PSYCHEDELIC MAGAZINE LTD. vol.1」東京オペレーションセンター

【主なパブリックコレクション】

ニューヨーク近代美術館、ヴィクトリア&アルバート博物館
愛媛県美術館、高知県立美術館、駒ヶ根高原美術館
財団法人直島福武美術館財団、佐久市立近代美術館
札幌市生涯学習総合センター、セゾン現代美術館
世田谷美術館、高松市美術館、彫刻の森美術館
東京オペラシティアートギャラリー、東京都現代美術館
富山県立近代美術館、新津市美術館、原美術館
広島市現代美術館、福岡市美術館、ふくやま美術館
ベネッセハウス直島コンテンポラリーアートミュージアム
CCGA現代グラフィックアートセンター